

【香川アイスフェローズ賞】

みんなが気持ちよく過ごせる世の中にしたい

土庄町立土庄中学校 三年 角石 悠

これは、僕がゴールデンウィーク中に体験したことです。久しぶりに長い休みになり、僕はずっと会いたかった兄や祖父母に会いに行きました。じいちゃんは、新車を買ったばかりだというので、僕はどんな車か船が港に着くまでウキウキした気分でした。土庄港から高松港までの一時間、それはとても長く感じられました。港に着くと、ばあちゃんがうれしそうに「ゆうちゃん、来たんな」と言って手を振っていました。じいちゃんの車は思っていた以上に大きくて、乗り心地がよかったです。久しぶりに会えた兄と、僕は大好きなアニメの話をしながら、じいちゃんの家へ向かっていました。

ちょうどその時のことです。後ろからけたたましくクラクションを鳴らす車が近づいてきました。その車が横に来ると、またクラクションを鳴らし続けました。とっさに兄がスマートフォンで撮影を始めると、その車はクラクションを鳴らすのを止め、急に前を追い抜いていき、今度は別の車の後ろに張り付くようにしてまたクラクションを鳴らしました。僕はどうしたらよいのかわからず驚いてばかりでしたが、じいちゃんはまったく相手にしていない様子で、「またか。とんでもないやつや！」と言い放っていました。ばあちゃんはというと、とても怖い思いをした様子でブルブルと震えていました。そこで、みんなが近くのスーパーで買い物をして気分転換をして帰ろうとしました。

僕のじいちゃんは、障がい者手帳を持っています。心臓が悪くなり、手術をしたからです。見た目はふつうだけれど、普段生活をするとき、みんながふつうにできることができなかったり、体がしんどくなった

りします。左側の胸に大きな傷があり、そこには機械が埋め込まれています。心臓を動かすための電池も入っているそうです。そのため、スーパーや図書館で車を駐車するときは、障がい者スペースに停めています。その日の買い物ときも、いつものように障がい者スペースに車を停めました。じいちゃんが車から降りると、全く知らないおじさんが怖い顔をして近づいてきて、「ここに停めるな！おまえは障がい者か？」と大声で怒鳴りつけてきたのです。じいちゃんは手帳を見せて、「私は障がい者です」と言うと、その人は謝りもせず、どこかへ走り去って行きました。ばあちゃんは、ますます怖い思いをしたようで、その場に座り込んでしまいました。せつかく久しぶりにみんなに会えたのに、その日は散々な目に遭いました。

その日の晩はみんなでおでんを食べて、夜遅くまでおしゃべりを楽しみました。僕はばあちゃんたちを元氣付けようと、食器の片付けなどを手伝いました。ばあちゃんは、だんだん元氣になってきたのでホッと一安心しました。

世の中にはいろんな人がいるのが当たり前だけれども、突然何も悪くない人を傷つけたり、思い込みで他人を怒鳴りつけて自分が間違ったことに気付いた途端に逃げていたりする人がいます。じいちゃんには、「いつものことや。腹を立てるだけムダだ」と言うし、母は「日常のイライラやストレスを他人にぶつけてスッキリしている人は相手にしない方がいい」と言うけれど、僕はモヤモヤした気持ちが募ります。「誰だってこんな嫌な思いはしたくない。お互いのことを気遣って、みんなが気持ちよく過ごせる世の中にするためにはどうすればいいんだろう？」と、なかなかよい考えが浮かんできません。

今の僕にできることは、まず自分自身が「イライラしていても誰かに八つ当たりするのはやめる」ことです。自分のイライラを人にぶつけて傷つけるのは、落ち着いて考えてみたら残念で悲しいことだと思

います。そして、じいちゃんのように見た目はふつうだけど、実は不自由なところがある人もいるし、いろいろな配慮が必要な人たちがいまいます。だから「見た目で判断するのはやめる」ことです。みんなが気持ちよく過ごせる世の中になりたい。だから僕は、相手のことをよく知る努力が必要だと思うし、「自分がもしその立場だったらどうだろう？」という意識をもちたいです。